茂り、中のせまい急勾配の山道を、汗をかきかき登ったそうである。

途中で、陽は落ち、山はとっぷりと暮れ、あたりは夜の闇につつまれた。何しろ白昼でも盗人（ぬすっと）が出るとか、死人がいつの間にか消えていたとかいう話を、誰となく話に聞いていたので、死人の胸元には、魔除けの刀をのせて、いつ何がおそってくるかもしれないと、時々空へ向けて鉄砲で、バーンバーンと空砲を放ちながら、夜道を急いだそうだ。全く生きた心地もせず、難所中の難所と言われた中の谷を、それこそ死にもの狂いで越したといい、「中の谷こそ泣く谷よ」と、そんな言葉でもすんで話してくれたことであった。

また或る時は、中の谷の手前で日が暮れたが、大勝にも一人で峠を越した人の話も聞いた。

ふもとの村人が、「今からだと夜になるで――」と引止めたらしいが、「なあに、急げば何とか越せるだろう」と答えて登り始めた。

しかし、日が傾きかかると夕暮れは早く、山はすぐ夜になる。くらやみをしばらく歩いたが、道を迷っては大変と、墓を見つけたのをこれ幸いと、「一晩の伴（とも）をさせてくれ」と墓に話しかけ、疲れも出たので、そのまま墓にもたれて、グッスリ眠ったという。「昔から、神社はケモノ類が騒がしいが、墓地は静かだ、といわれているが、まったくその通りであった」と、その人が話したそうである。

今でこそ自動車で、あっという間に通過してしまう中の谷であるが、昔は「ナカンタニ」（中ノ谷）でなくて、泣く谷よ」といわれていたそうである。

（おわり）

紹介（その一）

羽出浦の歴史と民俗　「大分県地方史」連載中
―賛助会員　安部弥右衛門老の大作―

（羽　柴）

安部老は明治十九年十二月のお生まれであるから、ただ今九十二歳のご高令、漁村羽出浦の古跡をしらべられ、庄屋古文書を丹念に読解、さらに漁村の民俗を調査記録されてきた。

それらは何十冊に整理され、昭和四十二年十二月以来、この「佐伯史談」誌上に発表、数年間つづいたことは、古い会員はよくご存知である。

ところが、この安部老の労作が、県文化財専門委員深矢多住男先生のお目にとまり、そのお手引きで「大分県地方史」の毎号に、今連載中である。年令的には本会の最高第一人者で、誰も真似出来ないご事業である。

「大分県地方史」は、幸いご恵贈をいただき、毎号そろっている。とくに漁村会員のご覧をおすすめしたい。

では、これまでの分をご紹介しよう。

研究ノート

羽出浦の歴史と民俗　「大分県地方史」連載

（一）五十三年一月　第八十七号

「安部氏は明治十九年生れの九十才（当時）という高令ですが、羽出浦の歴史と民俗について研究をすすめてこられ、未発表の原稿が、数百枚に達しているとのことで、本号にその一部を掲載させて頂きました。……研究に対する情熱に、まことに敬意以外の何ものもありません。掲載については深矢多住男氏の一方ならぬご協力をいただきました。（豊田）」　編集後記　（以下も同じ）

（二）五十三年四月　第八十八号

前号の続篇をなすもので、氏の労作である。従来あまり知られていなかった海部の民俗を考える上で、貴重な報告である。(佐藤)

(三) 五十三年六月　第八十九号

……学問に年令はなく、周囲すべてが学問の師であることを証明した、頭のさがる労作である(橋本)

(四) 五十四年一月　第九十一号

……ご本人の研究の成果もさることながら、漆矢多北田の氏の手を経ているだけに、克明な描写に一貫した精彩が加わり、驚嘆に値いする民俗誌が完成しつつある。特に衛生の項は民俗調査に従事する者にとって、見過し勝ちな点で教えられることが多い。

(五) 五十四年二月　第九十二号（これは四五日前届いたもの）

……近代化の進む県南の漁村の、明治から現代にいたる交通・運輸から藩制・宗教の変遷を、民俗的に調査した貴重な研究である。(吉田)

まだまだ続くようである。幸い漆矢先生が見て下さる。この研究ノートが完成されるまではお元気でつづけてほしい。

なお、十年ばかりに亘る「佐伯史談」誌上発表の全部を、そのままコピー印刷にまとめ出版の企画が進んでいるという。全く素晴しいこと、敬服の外はない。

併せて会員の皆さんにお知らせして、その完成に期待申したい。

解答

誌上演習の四文字は？

1. まず年号。元禄を除けば、年表江戸時代では元文か元治、さかのぼって元和ということは考えられない。
2. 次に年一字である、一けたで、
3. 干支は乙(きのと)　元文年間にきのとはない。そこで元治二年(四月に慶応と改元)この年が乙丑(きのとうし)である。で、干支の空字は丑ということになる。
4. もう一つ、月はどうか、閏月は慶応元年の五月で、五月の次に閏五月というのがあった。となると四月の改元で当然慶応ということになる。設問もまずかったが、地方ではこんなこともあっていた。

むすび　古文書や古墓の調査には、歴史手帳にある「年代表」にそえて改元月、閏月の書かれた年代表が必要ということになる。

紹介（その二）

優良図書＝本会備付・貸出します

○ ながい坂　高知新聞社編　高知市 細木渓龍氏寄贈

老いはやがてやって来る、大半の会員がそうだ。そしてすでに六十五才、七十才の会員もかなり多い。いろいろな問題を具体的にあげて、その解決を与えている。一読、前途が明るくなる老境必読の書。

○ 沈んだ島―別府湾瓜生島の謎―　羽柴 弘 寄贈

瓜生島の存在は、今は謎でなく、いろいろな資料と海底から引揚げ、さらに近く大がかりな学術調査にかかろうとしている。

○ 仏　像―心とかたち―　二冊共

○ 続 仏 像　望月信成・佐和隆研・梅原猛共著

仏像の見方、仏像の理解に格好の手引書。

本会顧問 矢田 清 氏寄贈

既に貸出中

○ 大分県画人名鑑　大分市 会員 大塚富吉 著

会員の学習用として購入(二,〇〇〇円)

・書画愛好家に欠かせない本。

○ 臼杵物語　臼杵市 高橋長一氏(元臼杵史談会々長)

わが史談会の臼杵市探訪に、その都度ご案内とご教示をして下さった高橋会長の研究集大成。ご厚意から本会にご恵贈下さった。すでに貸出中

尚個人用としてご所望の方、三冊だけお預け願い、すでに届いている。お引とりを乞う。

四国霊場巡拝資料　貸出し

想い出をたしかにし、復習をなさる方に、また再遊の計画ある方に、次の資料を貸出す。ご活用希望

次の外 地図・観光パンフレット等いろいろも

○ ワンダフル四国　○ 四国八十八ケ所 (上)阿波・土佐 (下)伊予・讃岐

○ 巡拝案内遍路の杖　○ 巡拝スライド(幻灯機共)